

# 書道の部

応募作品2,055点

## 最優秀賞（1点）

最優秀賞  
藤沢市立村岡小学校

さいしょ こはる  
最 所 心 遙



## 優秀賞（3点）

優秀賞  
茅ヶ崎市立東海岸小学校 町田 結



優秀賞  
伊勢原市立桜台小学校

ふじい ゆづき  
藤井 結月



優秀賞  
南足柄市立岡本小学校

ひとみはるか  
人見華香



## 入賞 (36点)

入賞  
相模原市立南大野小学校

ひとみり乃  
人見莉乃



入賞  
相模原市立麻溝小学校

いしざきせな  
石崎芹夏



入賞  
相模原市立作の口小学校

どいゆいか  
土井結夏



入賞  
平塚市立港小学校

よしおかりの望  
吉岡莉望



入賞  
藤沢市立浜見小学校

おおもり  
大森 棟



入賞  
小田原市立三の丸小学校

たにかわみづき  
谷川瑞季



入賞  
小田原市立報徳小学校

おいがわ ゆま  
及川 結舞



入賞  
小田原市立豊川小学校

すがわらかるな  
菅原かるな



入賞  
小田原市立豊川小学校

やまぐち ありさ  
山口 彩莉紗



入賞  
小田原市立国府津小学校

あだちりの  
阿達理乃



入賞  
小田原市立町田小学校

ぬがた ここの  
額田 心香菜



入賞  
小田原市立下府中小学校

うづきひ  
卯月日菜



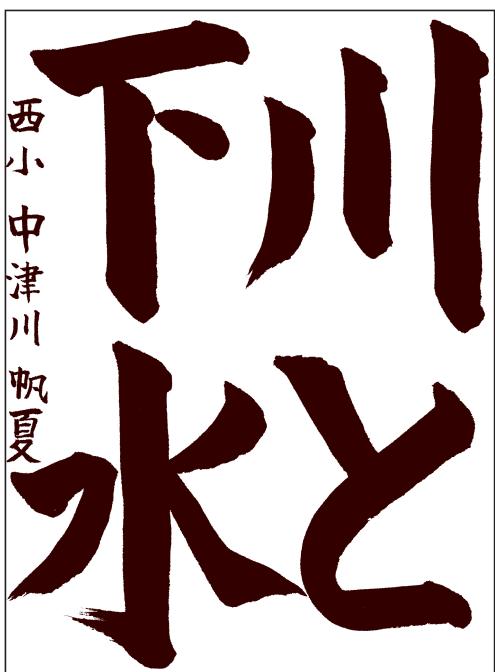
入賞  
茅ヶ崎市立東海岸小学校

おおの  
大野なな子



入賞  
秦野市立西小学校

なかつがわ  
中津川帆夏



入賞  
秦野市立本町小学校

おざわ  
小澤佑津季



入賞  
厚木市立小鮎小学校

なるい  
成井しおり



入賞  
厚木市立厚木第二小学校

せきぐちかえ  
関口加恵

厚木市立厚木第二小学校  
関口加恵

ど下  
う水

入賞  
伊勢原市立桜台小学校

まちだりこ  
町田凜心

桜台小学校  
町田  
りこ

る生  
水き

入賞  
伊勢原市立伊勢原小学校

もりたあやな  
森田絢菜

伊勢原小  
森田絢  
菜

る生  
水き

入賞  
伊勢原市立大田小学校

すやまほのか  
陶山穂

伊勢原市  
立大田小  
陶山  
穂

る生  
水き

入賞  
海老名市立社家小学校  
はまぶち みつき  
濱 刃 美 月



入賞  
海老名市立杉本小学校  
いしばし とあ  
石 橋 永 愛



入賞  
座間市立相模が丘小学校  
おくだりさ  
奥田 莉紗



入賞  
座間市立栗原小学校  
ほりこしおおしろう  
堀越 大志郎



入 賞  
座間市立東原小学校

アツエグ ドリス



入 賞  
南足柄市立南足柄小学校

瀬 戸 歩



入 賞  
南足柄市立岡本小学校

くまざわ  
熊澤

じん  
迅



入 賞  
綾瀬市立綾瀬小学校

かわはら  
河 原

あきら  
暁



入賞  
寒川町立旭小学校

だ て さ き  
伊 達 咲 希



入賞  
寒川町立旭小学校

す ず き そ う ま  
鈴 木 爽 真



入賞  
大井町立上大井小学校

い し い し ゆ う ま  
石 井 秀 磨



入賞  
松田町立松田小学校

え ん ど う は る と  
遠 藤 晴 人



入賞  
松田町立松田小学校

まつしま  
松 島

あおい  
碧

松田小  
松島碧



入賞  
開成町立開成小学校

ゆかわ る な  
湯 川 月 葵

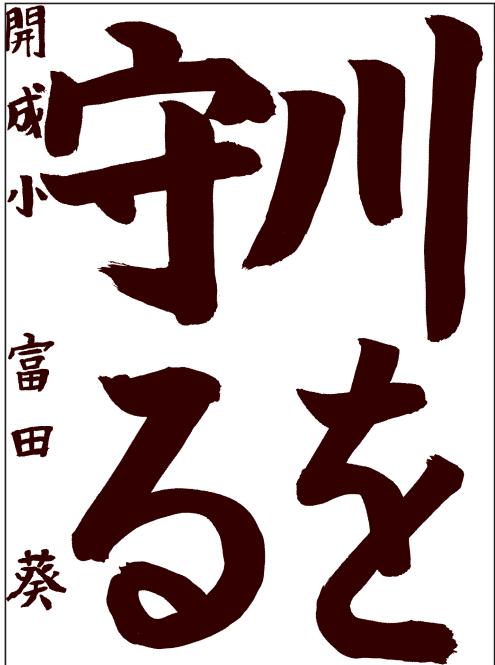


入賞  
開成町立開成小学校

とみた  
富 田

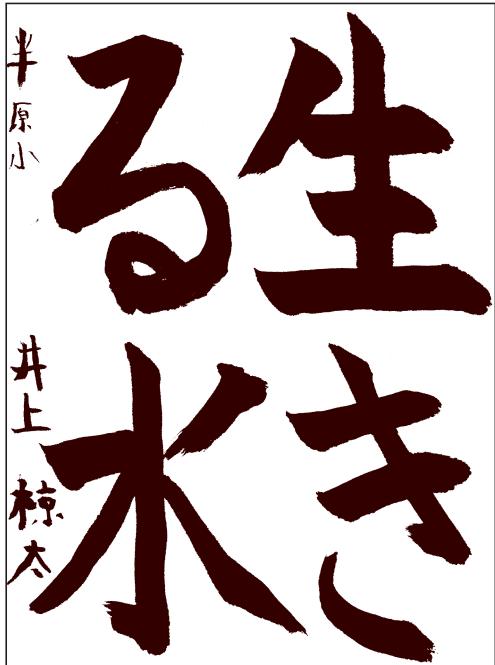
あおい  
葵

開成小  
富田葵



入賞  
愛川町立半原小学校

いのうえ りょうた  
井 上 棕 太



## 書道の部 選評

今年度の下水道作品コンクール「書道部門」には2,000点を超える応募がありました。コロナを心配してのマスク生活は大分やわらいできたようですが、この夏の酷暑を経験する中、何日か、何度か課題と向き合ったということは、本当に大変なことだったろうと想像しています。それだけに、作品を通してではありますが、みなさんとの出会いを楽しみながら、例年に倣い入賞作品を選び出していました。

そのポイントは、

- ◎ 正しい文字で書けたか
- ◎ 始筆・送筆・終筆はしっかり書けたか
- ◎ 半紙の大きさに合わせて、バランスよく書けたか
- ◎ 大きくのびのびと書けたか
- ◎ 美しい線で力強く書けたか
- ◎ 学校名や氏名もていねいに書けたか

等です。

さて、みなさんは真っ白な半紙を目の前にしたとき、何を考えているでしょうか。そこに筆をおろした瞬間から名前を書き終えるまでの緊張感には、かなり重いものがあります。そこから逃げてはいけません。軽く考えすぎても重くなりすぎてもいけません。落ち着いて作品を仕上げていくためには、課題文字をよく理解しているということが大切です。文字をよくよく見つめ、その一点一画の姿からそれらがどのように組み合わされているか、更に漢字や平仮名の書き方や大きさのちがい、二行書きのときの左右のつり合い、本文と名前の位置など、部分や全体にも気をつける必要が出てきます。これらを自分の力として発揮するためには、何度も練習するということも欠かせません。

今年の最優秀賞や優秀賞に選ばれた作品には、こうした基本的な過程を一步一步真剣にていねいに歩み、より高い目標を目指して挑戦してきた心の強さを感じられました。堂々としてとても立派な作品です。

書は、日本文化の一つでもあり、大切につないでいきたいものの一つです。今回応募されたみなさんが、パソコンなどで打ち出される画一的な文字ばかりでなく、個性をもった文字表現などにも関心をもち、より興味を広げていっていただけましたら幸いです。

元横浜市立小学校教諭・(現)書家

齋 藤 菁 芳  
(喜久恵)